



### 愛知勢

### 大活躍!

### 少年大会優勝・会員大会第3位の快挙

第7回文部科学大臣杯争奪日整全国少年形競技会  
第26回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会  
第41回厚生労働大臣旗争奪日整全国柔道大会

10月8日(日) 講道館にて、第26回日整全国少年少女柔道大会・第7回日整全国少年形競技会・第41回日整全国柔道大会の3大会が行われた。  
愛知県は少年の大会で見事優勝を果たし、会員の大会でも3位入賞と輝かしい成績を収めた。また少年大会で愛知・岐阜・静岡が3位までを独占し、形競技会で三重が4位になるなど、東海勢の活躍が目立った大会となった。



少年少女柔道大会は7階大道場で午前9時20分から午後2時過ぎまで行われた。昨年ベスト8で涙を飲んだ愛知県チームは、佐野 恵監督(半田)が見守るなか、2回戦・3回戦で接戦をものにして波に乗り、準決勝では静岡を3-1で圧倒し決勝へ駒を進めた。岐阜との決勝戦は接戦の末1-1で大將戦を迎え、富田選手が有力な女子選手から寝技で勝利を収め、平成13年と16年に続き13年ぶり3回目の48チームの頂点に立った。1回戦から決勝戦まで、試合ごとに違う選手が大事なところでポイントを取るというまさにチームワークの優勝であった。

優勝 愛知 準優勝 岐阜 3位 静岡・熊本

少年形競技会は午後1時過ぎから予選が行われ、28組が4会場に分かれて戦った。森 正仁監督(半田)率いる愛知県・牧園羽菜選手(取)と石原梗雅選手(受)の小6ペアは、Dブロックで5番目に出場。見事な技を披露するも、わずか0.3ポイント差で岡山県に惜しくも敗れ決勝進出を逃した。今回の愛知県チームは非常にレベルが高く3度目の優勝が期待されていただけに、森監督をはじめ選手たちは悔しさをにじませた。



少年の形の全国大会は極めて珍しく、NHKもこの大会を中心に取材に訪れ、大会の様子がこの日の夜のサンデースポーツで放映された。

優勝 青森 準優勝 北海道A 3位 岡山 4位 三重

午後0時20分から6階道場で16チームによる会員大会の1回戦が行われ、春日井和幸監督(柔道部長)率いる東海東部チームは、本会からは次鋒・浅井友哉参段(一宮)、副将・石黒貴彦四段(岡崎)、大將・竹上 勝六段(笠寺)が出場。まずは四国に2-1で勝ち初戦突破した。



2時50分頃より、大道場に場所を移し2回戦(準々決勝)から決勝戦まで行われた。愛知は準々決勝で東北を2-1で破りベスト8に勝ち進んだが、準決勝で南関東Bチームに1-2で惜しくも敗れ決勝進出を逃した。愛知に勝った南関東Bが優勝しただけにここでの敗退が惜しまれた。



昨年惜しくも1回戦で敗退することとなり、その悔しさをばねに今年は見事3位入賞を果たした。過去の優勝・準優勝を含め13回目の入賞である。

優勝 南関東B 準優勝 近畿 3位 東海東部・九州



### 第25回日整学術・生涯学習講習会



川松先生(左)と今泉氏

10月7日(土)午後1時から、日本柔整会館2階大会議室にて、一般都民を含め日整役員や全国代表者会員合わせて107名が参加して学術・生涯学習講習会が開催され、本会より役員10名が参加した。長谷川貴一副会長(日整学術教育部員)が司会進行を務めた。

前半の特別講演(公開講座)は、「ラグビーワールドカップ2019への取り組み」と題して、東京都議会議員でオリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ推進対策特別委員、日整コンプライアンス委員の川松真一朗先生が、組織委員会や開催地となる12都市の役割などを紹介し、入場料収入のみで開催・運営をしなければならない苦労や、開催都市との連携強化の必要性を説明。開催期間中多くの関係者や観光客が全国を回るため、柔道整復師の皆さんにはおもてなしの精神とともに伝統技術を伝えてほしいと述べられた。

その後、特別ゲストの今泉 清氏(元ラグビー日本代表、大分県ラグビー大使)との対談が行われ、今泉氏は現役時代のエピソードを交えながら、ケガの治療への考え方や柔道整復師の役割、西洋医学と東洋医学の連携について語られ、開催都市などで柔道整復のブースを構えて施術を行なうことが、世界に「Judo Therapist」の存在をアピールするよい機会となることと結ばれた。



後半の特別講演は、「介護保険をめぐる様々な話題」と題し、厚生労働省老健局振興課長の山本愛郎氏(写真)が登壇。介護保険の仕組みや現状を図表を交えて概説し、今後の地域支援事業にはさまざまな活躍の場があり、行政との信頼関係を築くためには顔の見える関係が大切として、施術所の信頼やプロフェッショナルとしての役割、地域での役割、保険者との信頼関係、また協定・契約の意味を十分把握したうえで、積極的につながりを持つことが重要と述べられた。また今回の柔整の制度改革の成果によって地域の信頼を勝ち得ることで柔道整復師が介護の分野でも大いに活躍できると締めくくられた。

会員発表では、「肩関節脱臼における一整備法の考察」と題し、(公社)大阪府柔道整復師会・河井好照会員が、従来の牽引を行わず、外転をしながら骨頭を手掌で前内方から関節窩へ押し込むように整備する手技を実技とともに説明した。

最後に長尾淳彦学術教育部長より「学術・生涯学習報告等」が行われ、午後4時15分終了となった。

### 名古屋市ジュニア柔道「投の形講習会(中学生対象)」

名古屋市ジュニア強化柔道競技力向上事業より県柔道連盟からの講師の依頼により、本会柔道部長・春日井和幸五段、柔道部員・相羽秀昭六段、中村太六段が、9月23日(土)露橋スポーツセンターで行われた上記講習会に派遣された。

午後1時から4時まで、中学1、2年生80名に、礼法、すり足、受身から始まり、手技、腰技、足技を詳細に説明し「投の形」を指導した。

(報告 中村 太)



10月6日・7日、イタリアのサルディーニャ島で、2017年世界形選手権大会が開催され、笠寺支部会員の石田雅明・真由美夫妻のふたりの娘さん、桃子さん(取)と真理子さん(受)が、柔の形で見事優勝した。



国際柔道連盟サイトより